

水曜通信26

東北学院宗教センター編

2023年
4月

第61回 水曜公開礼拝

2023年4月19日(水) 18:30-19:00



<礼拝次第>

前 奏：J.S.バッハ 作曲

「クリステ、世の人すべての慰めなるキリスト BWV670」

讃美歌：122番 「みどりもふかき」

聖 書：ルカによる福音書 6章20節～26節

讃美歌：38番 「わがたまのひかり」

説 教：「器に満たすべきもの」

頌 栄：540番 「みめぐみあふるる」

後 奏：E.エルガー 作曲

《夕拝のためのヴォランタリー》作品18より

「第3番 アンダンティーノ」

後奏の後、小野なおみ氏によるオルガンと中川郁太郎氏(本学特任准教授)の独唱による賛美を行います。

説教
宗教センター
チャプレン
野村 信



演奏・第2部 演奏
礼拝オルガニスト
小野 なおみ



第2部 独唱
本学特任准教授
中川 郁太郎



次回第62回水曜公開礼拝は2023年5月17日です。

第60回 水曜公開礼拝報告（説教：鐸木 道剛、奏楽：山司恵莉子）

2023年2月15日（水） 18：30－19：00

讃美歌：198番 「ちみこみたまの」
聖書：コリントの信徒への手紙Ⅰ 13章8節～13節
讃美歌：310番 「しずけきのりの」
説教：「信仰・希望・愛」
頌栄：539番 「あめつちこぞりて」



【説教要旨】

この聖書の箇所では、信仰より愛が重要と言う。ルターは「信仰によってのみ (sola fide)」義とされると言ったのではなかったのか。しかしそもそも信仰とは何か。出発点はイエスとの出会いである。それは歩けなかった人が歩けるようになり、目が見えなかった人が見えるようになるくらい感動的な愛の出会いであった。それをペテロやサマリアの女は、イエスがメシアであるとの信仰で表明したのであった。そして教義は、愛という感情を言葉で論理的に（人間に可能な範囲で）説明するために成立した。この大きな変化の時代にも、愛とそれを支える信仰によって、より良い世界を目指し、そして「栄光は神にのみ (Soli Deo Gloria)」あることを示す学院であることを。（理事長特別補佐〈宗教センター担当〉鐸木 道剛）

前奏：J.S.バッハ作曲 「いと高きところでは神にのみ栄光あれ」BWV676
（クラヴィーア練習曲集 第3部）

ラテン語ミサの「グロリア」をドイツ語に訳したコラールによる、流麗な協奏的トリオ。16分音符が絶え間なく続く中、コラール旋律が3つの声部に現れる。

後奏：J.S.バッハ作曲 フゲッタ「これぞ聖なる十戒」BWV679
（クラヴィーア練習曲集 第3部）

軽やかなジークのリズムによる4声のフーガ。マルティン・ルターの歌詞によるコラールに基づいている。

（礼拝オルガニスト山司 恵莉子）



礼拝とその後の19時00分から30分までの山司 恵莉子氏によるオルガンによる賛美に31名の方が参加されました。

礼拝後、音楽による賛美（オルガン独奏：山司 恵莉子）

1. フランソワ・クーブラン作曲《修道院のためのミサ曲》より〈グラン・ジュによる奉献唱〉

《修道院のためのミサ曲》は、クーブランが22歳の時に初めて出版した曲集の中の1つ。豊かな装飾法に富んでおり、当時流行していたオペラの影響も見られる優美な作品である。〈グラン・ジュによる奉献唱〉は、典礼の中で祭壇にパンと葡萄酒を捧げる場面である。

2. シャルル・トゥルヌミール作曲
《2つの神聖な交響的プレスコ画》op.75より 第1番

グレゴリオ聖歌が主題となっている、瞑想的な作品である。次第にあたたかみを増す音色により、救いが暗闇の中に静かに訪れ、夜の終わりが告げられる様子が神秘的に描かれている。

（山司 恵莉子）



宣教師たちの生涯と思想（2）J・P・モール先生の生涯

合衆国改革派教会二人目の宣教師ジャイラス・P・モール師（1847—1935）は1883年来日して以来、40年間にわたって活躍した最古参の宣教師の一人でした。モール師は「刻苦勉勵」の人と言えます。幼年にして父と死別し、経済難から家族が離散したため、親戚の家で成長しました。温和で忍耐強かったとされる人格は、幼少期の苦勞の中で生まれたのかもしれませんが。

モール師は、逆境に負けることなく、苦学して神学校を卒業し、宣教師として来日しました。そして長年伝道活動に従事すると共に、教育者としても活躍しました。モール師の感化によって受洗し、のちに牧師として献身した人も少なくありません。三校祖の影に隠れがち（？）かもしれませんが、苦難に負けず、異国で活躍したモール師の生き方には、胸を打たれる思いがします。

（大学宗教主任 藤野 雄大）



Jairus P. Moore,
Forty Years in Japan 1883-1923.
Philadelphia: PA. Board of Foreign
Missions, 1925.

— 建築が語る東北学院の歴史（17） —

東北学院中学校・高等学校に保存される旧校舎（東二番丁）の門柱に関する続報です。

図1に中学校・高等学校の旧校舎北門の写真を、また図2に大正時代の正門の写真を示します（図2は大正8年の「南町大火」で校舎が焼けた直後の写真です）。今回、これらをもとに、写真上で各部の寸法（部分間の比率）を測り、その値を実測調査の結果と比較しました。その結果、主要部分の比が、写真測定値と実測値とで非常によく一致することを確認できました。また、遺構には門扉を吊った金物の痕跡がありますが、その穴の位置もまた、写真とほぼ一致しました。

なお、門柱に埋め込まれている校名標は土樋キャンパスの正門と同一の仕様であり、その痕跡からも戦後に追加されたものであることが分かります。また門柱の高さは、同じく土樋キャンパス正門の歯状飾りまでの高さと同様であったことも確認できました。

（工学部 崎山 俊雄）



図1：中学校・高等学校旧校舎北門
（中学校・高等学校所蔵写真をトリミング）



図2：南町大火後の門の様子
（史資料センター所蔵写真をトリミング）

「TGCF」がはじまります！

宗教センターは今年、五橋エリアのキャンパス運用開始に伴い「TGCF」をはじめます。TGCFとは、正式には「東北学院キリスト教フェローシップ（英語名称：Tohoku Gakuin Christian Fellowship）」の略称です。学生たちによる自主的なキリスト教活動をサポートする取り組みです。例えば、学生たちによるイブニング・ワーシップの活動や外国人宣教師との国際交流、キリスト教の暦に則して企画されるイベントなど、様々なアクティビティを行います。ゆくゆくは、東北学院の幼稚園から大学院まで、さらには東北学院で働く職員の皆さんなど、学部の違いを超え、世代を超え、さらに職場の違いを超えた、TG全体の横断的な「フェローシップ（交流）」へ展開できたらと思います。

（宗教センター主任 原田 浩司）

ごあいさつ



2023年4月から、東北学院宗教センター主事の働きをさせていただくことになりました佐藤由子（ゆうこ）です。どうぞ、よろしく願っています。東北学院につながる学生の方々のキリスト教活動をサポートすることが主な働きとなりますが、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く。（ロマ書12：15）」との御言葉を心に留めて、皆様の身近なところでも、お役に立てる働きができるように努めたいと思います。

また今年度より始動する「東北学院キリスト教フェローシップ（TGCF）」の活動が、実り豊かなものとなるように祈ってまいります。一人一人の賜物が生かされて、学校内外に良き交わりが広がるお手伝いをするのができればと願っています。各学校にお伺いする機会や、学外の皆様とお会いする機会もあると思いますので、お声がけ頂ければ幸いです。

（宗教センター主事 佐藤 由子）

表紙の枠飾りについて



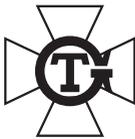
「リンディスファーンの福音書」
羊皮紙、第27葉、34x25cm
大英博物館



イギリスのイングランドの北の聖なる島（Holy Island）にあるリンディスファーン（Lindisfarne）修道院で8世紀初頭に制作された写本。左は、その「マタイによる福音書」の冒頭のページ4行で、ラテン語で「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図の本（LIBER/GENERATI/ONIS IESU/CHRISTI FILII DAVID PHILII ABRAHAM）」と記されている。

装飾帯の中では、海の怪物が絡み合っ、魔術的な組紐文となっている。福音の頭文字が土着の魔術によって侵食されているとも、あるいは福音の頭文字が土着の魔術を支配しているとも見える。しかし、まず目に飛び込んでくるのは大きな文字で記された聖書のテキストである。ここは人間としての自然な魔術的感受性を、キリスト教が、いわば遊びとして取り込んでいると読むのがいいだろう。内村鑑三やマックス・ウェーバーが書くように、超越に出会うことによって、世界は魔術から開放されたのである。

（史資料センター客員研究員 鐸木 道剛）



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第26号

2023年4月5日発行

〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1

発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司

東北学院宗教センター TEL：022-354-8310

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp